

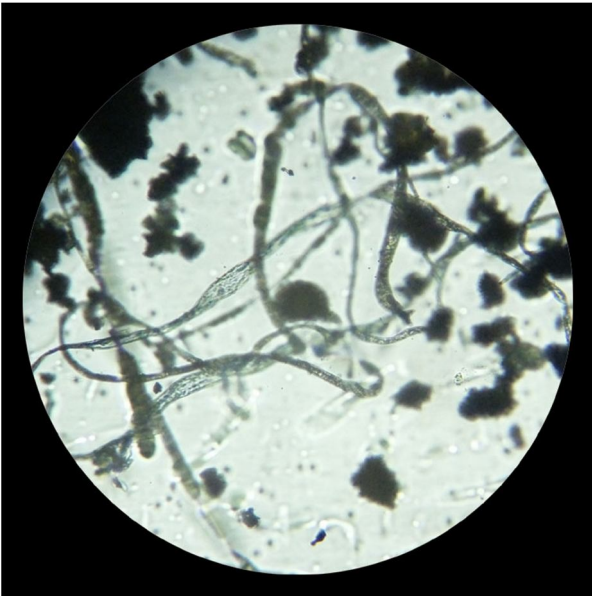
「5年・ホコリの中の花粉(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

身近なホコリの中から、花粉を探し出す活動は、5年生の子どもたちにとってはかなり難しい。ホコリには花粉も含まれるが、大部分は花粉以外のもので構成されているからだ。だからこそ、この活動は面白い。



まずは、採取してきたホコリを観察してみることにした。初めて拡大観察する「ホコリ」に、どの子どもも興味津々である。透過光も反射光も試してみる。

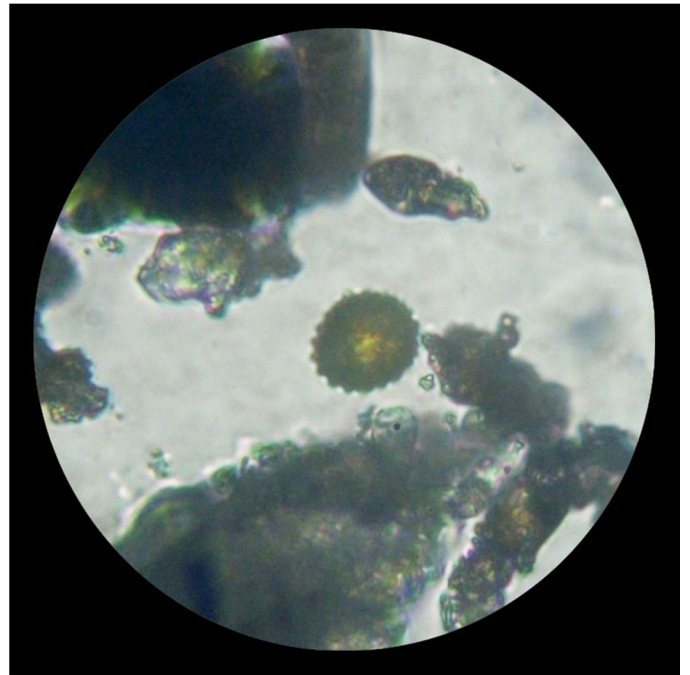


これは、外階段下駄箱の上に積もったホコリである。写真ではわからないが砂(鉱物の結晶)が圧倒的に多い。磁鉄鉱、水晶(石英)、輝石などが多い。火山灰(関東ローム)の再飛散が供給源の一つだろう。しかし、鉱物の結晶は丸いものは少なく、花粉とは明らかに形状がちがう。他にも、昆虫の脚や触角、種子の綿毛の一部、人工的な繊維などが多い。時には丸いガラ

ス状の物体…宇宙塵(微小隕石)も見つかる。



この日は「我こそは最初の花粉発見者!」とばかりに、「センサー・コール」で大騒ぎだった。私はほぼ全員の顕微鏡を覗いて回り、ヘトヘトになってしまった。しかし、その甲斐はあった。見つかったのだ。



鉱物の結晶や、植物(恐らく枯葉)の残骸と思われる雑多な物体の中に、明らかに特異な形状の球体が見られる。形態的にはアサガオに似た虫媒花粉である。しかし直径はわずか0.02mm。これは風媒花粉の大きさだ。大きさ、形状から見て、恐らく菌類の孢子であろう。しかし、孢子か花粉か、ということあまり重要ではないと思う。これを雑多な物体の中から、子ども自身が発見したという事実が素晴らしいのである。